

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年4月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676900113
法人名	医療法人 共生会
事業所名	びろうの樹
所在地	鹿児島県志布志市有明町野井倉6166番地1 (電話) 099-474-0033
自己評価作成日	平成27年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成27年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は「楽しく生活できるようにお手伝いします」「地域の方との触れ合いを大切にします」「いつまでも安心して過ごせるように対処します」を理念に掲げています。

法人内に医療機関や特定施設等の事業所があり、入居者様の希望や必要に応じて多様なサービスを受け、選ぶ事が出来る。
また急変時や事故に対しても迅速で適切な対応がとれる体制を構築している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは、母体医療機関を核に通所リハビリテーション・ショートステイ・小規模多機能ホーム・居宅介護等の事業所を運営しており、災害時等の協力体制や24時間医療連携体制が整っている。
- ・ホームの広い敷地内にポニーや山羊が飼われており、利用者は散歩を兼ねて動物との触れ合いを楽しんでいる。敷地内は住民にも開放されており、子ども連れの家族を見かける。地域との交流が自然な形でできている。
- ・自治会に入り、合同清掃や集会所の掃除・地域の運動会・敬老会に入居者と一緒に参加している。ホームの食事会や防災訓練に地域住民の参加がある。保育園児の訪問や中学生の職場体験学習・高校生の実習受け入れ等、様々な機会に地域住民と交流をしている。
- ・食事は法人内の厨房が担当し、疾病に対応した食事や個々に応じた食事形態で提供し利用者の残食が減少している。調理の負担が軽減されたことから、職員はより手厚いケアに取り組めるようになり利用者との向き合う時間が増えている。
- ・職員の9割が正職員で、資格取得の支援や福利厚生が整えられており、職員も意欲的で研修に積極的に参加し有資格者が多い。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ミーティングなどのスタッフが集まる場で理念の確認を行い、理解・周知をしています。	理念はユニットごとに掲示し、月1回のミーティングや合同のユニット会議・必要時に理念の確認やケアを振り返り、理念に沿った支援を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、清掃や集落の集会、敬老会に参加し、運営推進会議・防災訓練などにも出席頂き交流を図っています。	自治会に入り、合同清掃や集会所の掃除・地域の運動会・敬老会に入居者と一緒に参加している。ホームの食事会や防災訓練に地域住民の参加がある。保育園児の訪問や中学生の職場体験学習・高校生の実習受け入れ等、様々な機会に地域住民と交流をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	中学生の職場体験や高校生の実習等を積極的に受け入れ、又集落の集まりにも参加し認知症の方の理解を深めて頂ける様取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の頻度で民生委員、家族、行政等が参加し、運営推進会議を開催、入居者様の日常生活を写真等で紹介したり、活動の内容、事故等の報告をして外部からの意見を出して頂き参考にしている。	会議は定期的開催している。ホームの状況報告や地域の情報・要望・意見が活発に出され、現在のことから将来にわたっての計画を話し合い運営に反映している。今年度の避難訓練は、運営推進会議での意見を活かして取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市役所、地域包括支援センター、社会福祉協議会との連携を図りサービスの向上に努め協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>市担当者とは日常的に窓口で現状報告や不明な点を相談し、アドバイスや情報を得ている。生活保護担当者とも、電話や直接出向いて相談等を行ったり、市主催の研修会に参加し、日頃から協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関して職員が理解し拘束のないケアに取り組んでいる。研修への参加や自施設内で勉強会を開催し、全スタッフが知識と理解を深め身体拘束廃止に努めている。玄関の施錠は夜間のみ行っている</p>	<p>「身体拘束排除宣言」が玄関に掲示され、法人で身体拘束廃止委員会を設置している。年間計画で研修を実施し、ホームでも言葉の拘束や威圧感などについての勉強会を行い、ミーティングや日々のケアの中で理解を深めている。日中は玄関の施錠はせず、言葉による拘束も気づいたら注意し合う等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の研修会を元に勉強会を行い、虐待防止に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度の勉強会を実施し各スタッフが理解に努めている。必要に応じて専門家（行政書士）から助言を頂いています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には時間を取り十分な説明を行っています。普段から話しやすい環境を心掛け、また不安・疑問についてはその都度お答えしています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者・御家族からの意見や申し入れ等があった場合は、カンファレンス等にて検討を行い検討が必要な場合については、法人内での改善が出来るように報告を行っている。</p>	<p>利用者からは日々の暮らしの中で思いを聞いている。家族からは運営推進会議・食事会・誕生会・行事参加時に家族の意見等を聞いている。面会時には居室やテラス等で、一緒にお茶を飲みながら近況報告をして家族の要望等を把握している。受診の同行や現在の状況や今後のことについての相談を受け対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティング・カンファレンス以外にも意見を言える場を設け、その都度必要な意見を反映できるようにしている。</p>	<p>毎日のカンファレンスや毎月のミーティング等で意見を出す機会を設けている。個別に個人面談をしている。職員の提案を受けて、非常口の夜間灯設置や冬季の皮膚疾患予防のため入浴は隔日にする等の意見を反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回の人事考課表により自己評価、管理者の評価を受け、重要な意見として活かしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への参加を積極的に進め、毎月のミーティング等で報告を行い又、勉強会も行っている。全スタッフの知識を共有しケアの向上を図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県・大隅地区のグループホーム協議会に所属し、交流を図っているが、交流自体が不足している。実践者研修などの他施設実習を活かし連絡を取れる関係作りを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人・家族と面談を行い、これまでの状況や意向を聞く事が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの際、家族の意向・悩み不安等を傾聴し、関係構築ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの際、本人・家族の要望と意見を聞き、必要としているサービスの紹介に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々を一緒に過ごす中で利用者の不安や悩み・喜び等を共感し理解するように努め、共に考えあう関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご本人にとってより良い暮らしが出来るように、ご家族の意見を伺いながら、電話や年賀状等を一緒に書き、より良い関係作りを目指しています。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>以前住んでいた地域の行事等に参加し、通い慣れた美容室に行けるよう支援している。外出の難しい方には、美容室の方が訪問してくださったりしている。</p>	<p>本人がこれまでの生活を継続できるように、住んでいた地区の行事に参加したり、相撲大会に家族と共に出かけている。馴染みの店での買い物や墓参りに職員が同行したり、家族対応で通い慣れた美容室の利用もある。親戚や知人等の面会は気軽に来てもらえるような雰囲気作りをしている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様の性格や個性などを把握し利用者同士が良好な関係を築けるように努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も必要に応じて家族の方の相談を受けている。また状況を見ながら支援も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中での会話や表情から意向や希望を汲み取り小さな事でもスタッフ間で情報交換を行い、その都度検討している。	入居時に本人や家族の思いや暮らし方の希望を聞きフェイスシートに記録している。暮らしの中での言葉や態度・しぐさ・時間の経過と共に変化する思いを把握し職員間の連携を密に本人の思いを中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントの活用また本人・家族・個別担当者・ケアマネージャーを通じて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常時、スタッフ間の情報交換を密に行い、現状の把握に努めています。又必要に応じ専門職（PT・OT等）の方から意見等を頂いています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の把握を行い、担当者会議を通じて、日頃の様子を職員から聞き、本人・家族の希望（ニーズ）に合わせたプランの作成に努め、活動に活かしています。	本人や家族の希望を聞き、担当者や介護福祉士・ケアマネージャーが参加して、主治医に意見を聞き現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月に1回、見直しは6ヶ月に1回行っている。状況が変化したときはその都度見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個別に記録し、スタッフ間で情報を共有しそれを元に毎日のカンファレンスの中で検討し、介護計画書への反映にも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な状況に対応できるよう柔軟な支援を心掛け、状況に応じた支援が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	清掃活動や介護サポーターの受け入れ、ボランティアなどを通じ、入居者が地域で安心して生活できるよう支援していきます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が毎週木曜日に往診をして頂いており、日々の変化なども報告し、適切な医療を受けている。又家族の希望に添えるように支援している。	利用者のほとんどは以前より当法人の医療機関がかかりつけ医である。毎週往診があり、定期受診や必要時の受診は職員が同行し、24時間医療連携体制が整っている。遠くの受診は家族が同行している。職員に看護師もおおり、適切な医療が受けられるよう体制ができている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、看護師と情報交換を行い、相談又はカンファレンスに同席し、健康な状態が保てるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護目線、医療的情報など主に看護師が母体の病院関係者と情報交換を行い、入居者の状態・状況に合わせた支援が取り組めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、家族同席のもと説明を行っている。本人の状況を踏まえながら病状の説明を行うと共に主治医や家族の協力を得ながら支援している。	契約時にホームの方針について説明している。重度化等の場合に、主治医から家族に病状説明を行い、家族の意向確認の話し合いをしている。家族の意向に沿って、主治医及び家族の協力で支援しており、看取りの事例もある。職員は看護師が中心になって勉強会もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を開催し、初期手当の方法も含め、知識及び技術の向上に努めています。また急変時の対応マニュアルの勉強会も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域住民の方、近隣の方、消防の協力を得て、避難訓練を年2回実施している。また市主催の津波等災害の避難訓練にも参加している。</p>	<p>年2回の避難訓練を昼夜間想定で実施しており、1回は消防署の指導のもと行っている。訓練には住民の参加協力を得ている。緊急連絡装置を設置している。市主催の津波災害訓練にも参加し、避難場所は設定してある。災害時の食料等の備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室があり、スタッフが入室する際は、断ってから入室している。また入居者を尊重した言葉掛けを行っている。	契約時に本人への呼びかけ方を確認し支援している。排泄介助時のさり気ない声かけや入浴時の同性介助・個室の入室は了解後に行う等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から、好みや思いを把握し、介護側主導にならない様に、問いかける事で、本人が自由に選択できるようにように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護者からの誘導的な過ごし方にならないよう、言葉や行動を注意深く観察し、一日の行動を制限することなく、過ごしやすい生活が行えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎朝自分で出来る方はご自分で整容され、手伝いが必要な方は必要な部分の支援を行い、自分の好みのおしゃれに配慮・支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>週一回（火曜）給食会議を開催し、入居者の嗜好調査や感想を参考にしている。食後の机拭きやお盆拭き・米とぎや皿洗い等、各自が役割を持って行っている。</p>	<p>法人内の厨房が調理を担当しており、嗜好調査等を参考にしながら、個々の食事制限やミキサー食・ソフト食等の食事形態にも対応している。炊飯やおやつはホームで調理しており、職員と一緒に食事の準備や後片付けをしている。週1回入居者も参加して給食会議を開催し嗜好調査や感想も聞いている。誕生会や行事食に好みを聞き取り入れている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスに関しては、管理栄養士作成した献立を用い、助言を頂いている。水分量については毎日集計を取り、摂取量の少ない方については、形態や嗜好の物を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後は必ず口腔ケアを行って頂き、介助の必要な方については毎食後介助を行っている。又、歯科医の往診の際、助言も頂いている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表からパターンを把握し、適時のトイレ誘導・言葉掛けを行い、トイレでの排泄を促している。</p>	<p>日中は、排泄チェック表を利用して排泄パターンに応じた声かけや誘導を行ないトイレでの排泄を支援しており、見守りだけで自立している利用者もいる。夜間は、一人ひとりに応じてポータブルトイレ等も利用し、睡眠を確保できるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々にあった水分量の摂取を促し、無理のない運動を行い、便秘にならない工夫と生活リズムを促している。それでも便秘の方には看護師・医師に相談する事で個々に合った下剤の種類・量を判断して使用してる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の時間・温度・入浴剤等希望に添えるように配慮しながら、その都度聞きながら対応している	入浴は2日に1回行っており、好みの時間に同性介助でゆっくり個浴を楽しんでもらっている。身体状況等の必要に応じて複数介助も行い、安心してゆっくりと入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今迄の生活環境に出来るだけ近い形での入床が出来るよう努めています。又、照明・室温にも注意を払っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンス等の時間に看護師からの説明があり、申し送り等に記入しスタッフの周知徹底を図っている。症状の変化の確認等看護師と共に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ここで生活していく楽しみや、居心地の良い場所として感じて頂ける様に、利用者と一緒にできる事を一緒に行い充実した日々が送れるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候及び本人の体調が良い時は近所のスーパーへ買い物に行き、又屋外へ動物を見に散歩を行っています。施設外への外出の機会はまだまだ少ないです。今後も短い時間でも、外出の機会を増やせないか検討していきたいです	日常的には、広い敷地内の散歩やポニー等との触れ合いを楽しんでいる。ホームの行事で地域の相撲見物に家族も一緒に出かけたり、運動会や花見の外出等を実施している。希望での買い物や家族との外出等、できるだけ出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自由に使えるお金を持つことが心の支えになったり、不安が解消する事を理解し、外出時は、スタッフと共に買い物を楽しめる支援を行っている。御家族にも少額のお金を預けて頂ける様に声をかけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望時には電話できるよう支援しています。定期的な写真付きの新聞や年賀状、一緒に作成し家族に送る事によりここでの生活の様子や近況報告を行っています。文字を書く事の支援も日々行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心・安全に生活して頂ける様に環境整備に努めると共に、清潔な環境で生活して頂くため、掃除も毎日行っています。また季節の花や祭事の飾りつけをし季節を感じれる様に工夫しております。	対面式キッチンのあるリビングは広くゆったりしており、庭や中庭からの採光で明るい。加湿器等で適度な環境が保たれている。室内から桜を眺めたり、直接テラスに出たり、ユニット間の往来も自由で、ゆったりと思いい思いにくつろげる様に工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子を用意し、そこに座りながら音楽を聞いたり、テレビを見たり、ゆっくりと過ごせるように工夫しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の生活様式が異なるので、本人・家族に相談して本人にあった居室作りを行っています。	居室はベッドとタンス・クローゼットが備え付けられており、本人の使い慣れた寝具や身の周りの物を持ち込み、写真等を飾って落ち着いて過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、洗面、浴室の場所を明確にして入居者が迷う事無いよう環境作りに努めています。また入居者の状況や要望に応じて臨機応変に対応できるように取り組んでいます。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない